

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	日本語運用技術力の向上のための実践的教授法				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	坂巻 静佳
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美

講演題目

大学生の日本語の運用に対する理解力と運用技術力の向上を目指した教育実践

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 研究の目的

本研究は、本学学生が実社会において活躍するにあたって必要となる日本語運用能力の向上を目指すものである。本研究では、改まった場面における話し言葉としての言葉遣い、ならびに、電子メールなどの改まった場面における書き言葉としての言葉遣いについて、それがどのようなものであるかの理解を深めつつその運用技術力を高めることを目指す。同時に、そのために教員に必要となる効果的な指導方法を実践的に教授しながら模索し、また有効的な教材の完成を目指す。

日本語話者の書き言葉・話し言葉の運用能力の低下は著しく、本学学生においてもこれは例外ではない。本学学生を含む日本語話者は、日本社会の構成員として正確な言葉遣いが強く求められているにもかかわらず、丁寧な教育を継続的に施さなければその能力を身につけることは難しい、というのが実情である。

日本語運用技術力は日ごろの鍛錬において体得されるものであるが、本学学生にあっては、日常生活においても、本学の現行カリキュラムにおいても、これを体得する機会に恵まれているとは言い難い。そこで、本研究組織は、①電子メールの作成に必要なルールとマナーの指導、②敬語に関する基礎知識の指導、この2つの学習の機会を設けた。また、この学習に必要で有効な教材を作成し、さらに、この教材を用いた実践的指導を通じて教材の有効性と適切な指導方法を検証する。

2. 研究の成果

本研究組織は、短期集中指導で一定の効果の得られる教材と教授法の開発に取り組み、これを用いて、下記の(1)・(2)を実施した。(1)は国際関係学部生を対象とし、個別添削指導に近い形式を採った。(2)は全学学生を対象とし、基礎事項に関する集団指導をする形式を採った。参加者からは「非常に役に立つ」「役に立つ」との評価を得た。

(1)「メールの書き方ワークショップ」の開催

①第1回講座…テーマ：「講義に出席できない旨を伝達する」ことを社会的地位の上位者に伝達するためにどのように日本語を運用すべきか（令和5年7月6日に実施）。

②第2回講座…テーマ：社会的地位の上位者に「期日の迫っている書類の作成を依頼する」ためにどのように日本語を運用すべきか（令和5年11月29日に実施）。

いずれも、日本語作文の方法について講義するとともに、事前に課した課題について参加学生により書かれた文章を添削しつつ、必要となる言語技術について解説し、指導を行った。

(2)「敬語実践講座」の開催（令和5年11月29日に実施）

敬語の体系について概説したのち、事前に配布した敬語教材に基づいて解説を施しながら、「言葉遣いとは何か」「規範的な敬語とは何か」を教授した。

3. 今後の展望

実践の場面でこれらを生かせるようになるためには継続的に鍛錬することが必要である。本研究組織は、今後も日本語運用技術力を高めるための教育・指導の場を設け、これに必要な教材及び教授法のさらなる向上を目指していく。